「コロサイ」　　2019 年 03 月 05 日

コロサイの信徒への手紙 1 章 1 節～2 節　神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロと兄弟テモテから、コロサイにいる聖なる者たち、キリストに結ばれている忠実な兄弟たちへ。わたしたちの父である神からの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

現在のトルコの西部、エーゲ海に面した所に、当時の「小アジア」の首都エフェソがあり、そのエフェソから、200 キロメートルほど、東の内陸部に入った所にある町がコロサイである。コロサイはエフェソから東の国々に通じる街道の要所であった。

パウロは、エフェソに 3 年間、滞在して宣教活動を続けた。その間、近隣の町々に弟子たちを遣わし、宣教活動を力強く展開した。コロサイ教会は、パウロの弟子の一人エパフラスによってキリストの福音が宣べ伝えられて、建てられた教会であった。

コロサイ書が書かれたのは、パウロの死後、すぐの頃であったようである。パウロは、紀元 60 年頃、ローマで殉教したと伝えられている。コロサイは、紀元 60－61 年に大地震に襲われ、壊滅的な被害を受けた。コロサイ書には、その地震については触れられていないので、大地震の前に書かれたものと思われる。すると、パウロの死後、すぐに書かれた手紙で、聖書の中では、パウロ書簡に次ぐ古いものである。

コロサイ書は手紙の形式を取っており、三つの要点を踏まえている。まず、送り手は、「神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロと兄弟テモテから」である。御子イエスの十字架による贖い、罪の赦しなどの基本的な信仰は、パウロの信仰を確かに受け継いでいるが、語彙や表現はパウロとは明らかに違っている。宇宙的キリスト論を展開し、その時代背景から後のものになるので、パウロ自身が書いた手紙とは言えない。パウロの信仰に倣う弟子がパウロの名を借りて書いたものである。送り手にパウロの他にパウロの忠実な弟子であったテモテを「兄弟」と書いて、二人からの手紙としている。テモテも有力な宣教者として、尊敬を集めていたのである。

宛先は、「コロサイにいる聖なる者たち、キリストに結ばれている忠実な兄弟たちへ」となっている。4 章 16 節に、「この手紙があなたがたのところで読まれたら、ラオディキアの教会でも読まれるように、取り計らってください。また、ラオディキアから回って来る手紙を、あなたがたも読んでください」と書かれている。諸教会に、信仰を励まし合おうと諸々の手紙が送られ、それが、回覧されていた。コロサイ書は、コロサイ教会の礼拝で読まれ、次にラオディキア教会に送られ、読まれるはずの回覧書簡であったのである。これらの回覧書簡は、キリストの福音は恵みに満ちた救いであり、その福音を与えてくださった神の愛に感謝し、神を賛美すること、そして、福音にしっかり留まって信仰を全うするように励ますことが、目的である。コロサイ書には、当時、流行っていた哲学に心惹かれる者たちがいたが、それらは、人間の言い伝えに過ぎず、騙し事であるから、虜にされないように注意を喚起している特徴がある。コロサイ書が書かれた頃に、ヨハネ福音書のロゴス・キリスト論のような宇宙的キリスト論が、既に、展開されていたことに驚かされる。教会は短い期間の内に、神学的な発展を遂げ、宣教していたのである。

最後の祝福の祈りは、「わたしたちの父である神からの恵みと平和が、あなたがたにあるように」である。教会にとって、神からの恵みと平和が何より嬉しい祝福なのである。